

「平成19年 日台共栄の夕べ」レポート

豪華な顔ぶれで日台交流に弾み！ 会員の団結力も高まる

事務局次長 富澤^{とみさわ}賢公^{けんこう}

本会ならではの超豪華企画

設立五年目という節目の年の平成十九年を締めくくる本会最後の大会イベント「日台共栄の夕べ」が十二月二十四日、東京・アルカディア市ヶ谷にて盛大に開催された。壇上に台湾駐日代表の許世楷代表と亜東親善協会の玉澤徳一郎会長からの生花が彩りを添える中、三百人を超える参加者が詰めかける盛会ぶりであった。

第一部の記念講演会は今をときめく女性論客の櫻井よしこ氏をお招きし、これまたテレビでもおなじみの台湾の星、金美齢さんが来賓挨拶とともに櫻井氏を紹介していただくという本会ならではの超豪華な企画で、その幕が切

って落とされた。

第一部の講演会は神奈川県支部の澁谷陽子さんが司会をつとめ、小田村四郎会長が残念ながら都合により欠席し、黄文雄常務理事が開会挨拶。金美齢・前総統府国策顧問の来賓挨拶に続き櫻井よしこ氏が「日本と台湾の大切な関係」という演題で約一時間に亘ってご講演。会場ではしきりにうなづく人が多い。講演の最後には晴れやかな顔になっている（8頁参照）。質疑応答の後は櫻井氏が恩師と慕う田久保忠衛副会長が閉会の挨拶。ユーモアを交えつつも「日本の指導者も台湾の指導者も、中国の微笑外交に騙されてはいけない」と締めて無事終了。

金先生はユーモラスに、イブの夜の

忘年会は野暮とおっしゃったが、何を隠そう会場の男どもは、天が二物も三物も与え賜うた金さん・櫻井さんお二人との ONE WAY デートを十分に楽しんだのであった。女性は勿論、今夜はスクリーン上の御方とはいえ、幸か不幸か李登輝先生に勝る彼氏はこの世には存在しないのだ。

にぎやかに大忘年会

いよいよ第二部の大忘年会は遠藤正弘・神奈川県支部副支部長の司会で始まった。宇都宮鐵彦理事の開会挨拶に続き、園田^{そだてん}天光^{てんこう}・育桜会名誉会長、中條高德・アサヒビール名誉顧問、さらには廖經邦・台湾駐日代表処顧問兼総務部長が来賓挨拶。その後、祝電が披露され（衆院議員の前原誠司、長島昭彦、笠浩文の三氏）、そして梅原克彦・仙台市長による乾杯の音頭で大忘年会に突入と相成った。

おいしいお酒と料理に舌鼓をうちながら、スクリーンに映し出された李登



豪華賞品が提供されたお楽しみ抽選会（12月24日、アルカディア市ヶ谷）

輝前総統の来日時のビデオを見ながらしばし歓談の時間が流れた。遠く東北、北陸、中部、関西からは参加した面々は李登輝学校の同窓生、支部立上げの同志、桜の植樹ツアアの参加者など。久々の再会で盛り上がった。

永山英樹理事による「正名運動」「台湾の国連加盟」「住民票記載」「外国人登録証国籍表記」などの諸問題解決を呼びかける発表では、これらを日本国内問題として今後の当会の活動の柱の一つとしての重要性を訴え、いっそう会員の団結力が高まった。各界からの来賓スピーチは、今回初

出席の園部逸夫・台湾教会会長、易錦銓・日本長昌之友会代表委員、古田島洋介・日台交流教育会会長の各氏、また宮元陸・石川県議会日台友好議員連盟幹事長からもいただいた。

その後、支部紹介と進み、いよいよ参加者お待ちかね恒例の「お楽しみ抽選会」が片木裕一理事の手慣れた司会で始まった。今回も当会が日頃何かとお世話になっているチャイナエアラインより台湾往復航空券二本、池栄青果からは台湾名産の白柚六個、劉の店からはおなじみの台湾鐵路弁当を三個、台湾観光協会からは嘉義のホテルのペア宿泊券と台湾をあしらったTシャツ等々、豪華な賞品が提供された。ご提供各位には、この場を借りて改めて御礼申し上げたい。

午後二時半より始まった熱気あふれる「日台共栄の夕べ」も終幕を迎え、最後の締めは、おなじみの林建良常務理事。「一人ひとりが国を愛し、立て直す気構えが必要だ。行動することが

重要だ。ただの李登輝ファンであってほならない」とぶち上げ、閉会の挨拶ならぬ大演説に。そして万歳三唱にめでたくお開きとなった。

ひとつだけ残念だったのは、小池百合子衆院議員の来場が遅れ、来られたときはすでに来日ビデオの上映中で、氏も次の予定があるとかで、踵を返すようにお帰りになったことだ。

書籍の販売も好調で、永山英樹氏の最新刊『日本の命運は台湾にあり』が完売し、金美齡先生の最新刊『凜とした生き方』も金先生みずからサイン会を買って出られてこれまた完売。

本部事務局の至らなさもままあった会ではあったが、来賓接待、受付、会場整理、書籍販売、抽選会のアシスタント等々でお手伝いいただいた会員や李登輝学校日本校友会の皆様には、講演会もろくに聴けず、料理も満足に食べられなかったにもかかわらず、ご協力いただき感謝申し上げます（表3「日台共栄写真館」参照）。